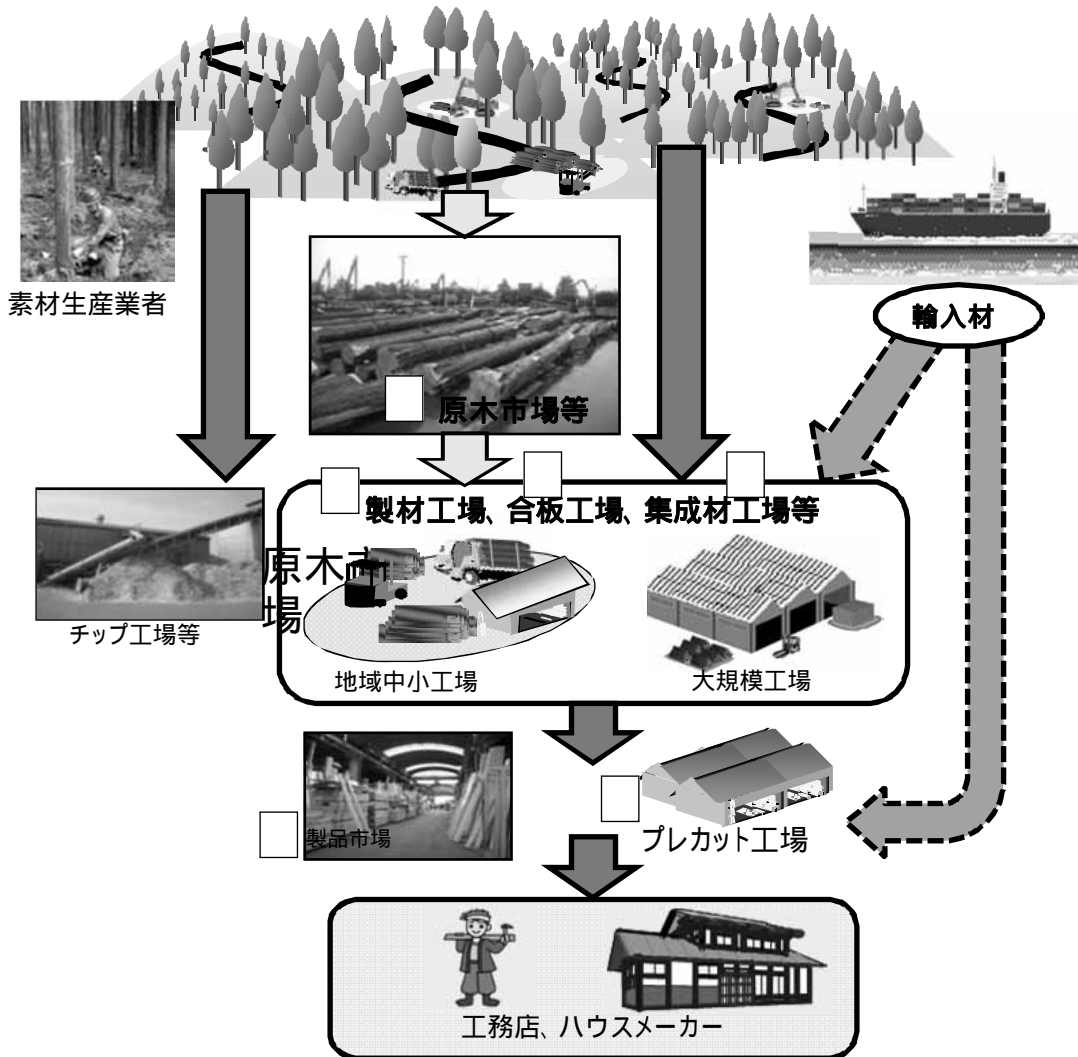




## 木材の加工・流通の構造（イメージ）



山から生産される丸太のことを「原木」または「素材」という。

出典：林野庁「森林・林業・木材産業の現状と課題」

**木材統計調査（基幹統計）**における調査対象は、以下のとおり。

**1 基礎調査（年次調査）**

製材用動力の出力数が7.5kW以上の製材工場（図中の□）。以下「製材工場」という。）、木材チップ工場（図中の○）及び単板又は合板を生産している事業所（図中の△。以下「合単板工場」という。）

**2 製材月別調査（毎月調査）**

製材工場（図中の□）

**3 合単板月別調査（毎月調査）**

合単板工場（図中の△）

木材流通統計調査（一般統計）における調査対象は、図中の□。

## 未諮問基幹統計(木材統計)についての委員の御質問・御意見等について

平成27年2月19日  
第57回基本計画部会資料

通し番号	基本計画部会で確認したい事項	確認したい事項とお考えの理由
1	木材加工・流通の産業構造の現状	基礎資料の参考資料として「木材の加工・流通の構造(イメージ)」が添付されていますが、産業構造と統計調査の体系について、詳しく聞きたい。
2	平成17年の統計審議会答申で「今後の課題」として指摘された木材統計調査での集成材の把握に関するその後の検討状況	平成17年の統計審議会からの答申で指摘された今後の課題で「木材流通構造調査(一般統計調査)で把握されている集成材については、今後の生産量等を勘案し、木材統計調査の一環として把握することを検討する必要がある。」とされており、基礎資料にも対応の概況について記載されておりますが、集成材の生産量等の状況を含めた検討状況の説明を聞きたい。
3	基礎調査の調査対象とする製材工場の製材用動力の出力数の下限規模(現行75.0キロワット)の見直しの余地	平成17年の統計審議会での諮問・答申の際の審議状況を見ると、調査範囲について、製材統計調査の基礎調査は、それまで、製材に用いる動力の出力数が37.5キロワット以上の製材工場は全てを対象に、37.5キロワット未満を標本(1/3抽出)により調査を実施してきたものを、小規模製材工場の廃業等業界の構造変化を踏まえ、この下限規模を37.5キロワットから75.0キロワットに引き上げているが、下限規模の変更から約10年を経ており、製材業界の構造変化がさらに進んでいることも考えられるため、下限規模について見直しの余地はないのか、また、動力出力数以外に工場規模を判断する適切な材料がないのか説明して欲しい。
4	オンライン回答を推進するための改善方策の検討状況	基礎資料を拜見すると、今後のオンライン回答を推進するための改善方策を検討しているとのことですが、その改善方策を説明してほしい。

## 未諮問基幹統計（木材統計）に係る確認事項等

### 1 産業構造と統計調査の体系について

- ・ 木材の加工・流通構造と統計調査の整備状況について

### 2 調査の設計について

- ・ 平成 17 年の統計審議会答申で「今後の課題」として指摘された木材統計調査での集成材の把握に関するその後の検討状況について
- ・ 基礎調査の調査対象とする製材工場の製材用動力の出力数の下限規模（現行 75.0 キロワット）の見直しの余地について

### 3 作成方法の効率化等について

- ・ オンライン回答を推進するための改善方策の検討状況について

# 木材統計調査について

## 統計委員会基本計画部会資料

平成27年2月19日

農林水産省

### 目次

- 1 木材の需給構造及び調査体系
    - (1) 木材の需給構造
    - (2) 調査体系
    - (3) 調査対象
    - (4) 調査結果の利活用事例
    - (5) 調査の沿革
  - 2 木材の加工・流通の構造
  - 3 集成材の生産量
  - 4 調査対象工場の規模等について
  - 5 オンライン調査
- (参考1) 標本の抽出  
(参考2) 集成材